

やすらぎの じぞうもじをあなたに

二〇一四年カレンダー完成

昨年は多くの方からのご要望によって初めて「じぞうもじ」のカレンダーを製作し二〇一三年のカレンダーが出来ました。私が想像する以上の反響をいただき、二〇一四年カレンダーのお願い合わせが続きました。そうしているうちにもう来

年のカレンダーを製作する時期になり、来年はどんなテーマにしようかと考えました。作品を製作するに当たり、私自身が楽しみ、観る人々の心も毎月楽しめるようにと考え、これまでの代表作品を織り交ぜたカレンダーにすることにしまし



静かに佇む遠ばたの目立たないお地蔵様に
何気なく目が留まったとき、微笑ましく思ったり
何かしら手を合わせたくなったりするようにな
って自然と「じぞうもじ」にも
何かを感じていただけたらと思います。
目立たずの強くやさしいお地蔵さま
私の書く【じぞうもじ】もそう祈りたいと願っています。

書家 夕深(ゆうみ)
<http://jizoumoji.com/>



NO.2
2013年10月1日発行
発行者 夕深
981-1107
仙台市太白区
袋原郵便局留
問い合わせ先
090-6221-6611

た。中には毎年その時期になると求められる人気の季節作品があります。二〇一四年カレンダーは作品集として仕上げましたので、いろんな作品を毎月楽しんでいただけたらと思っ

体育館で揮毫

宮城県石巻北高等学校飯野川校体育館に雄勝小学校・雄勝中学校の生徒・飯野川校の高校生が集まり、子供たちを前に大きな筆で揮毫しました。目の前で書く大きな書は観たことがないだろう子供たちの眼の輝きは今も忘れません。中学生代表の生徒会長から「前進」の文字のリクエストがありました。東日本大震災から2年過ぎ、飯野川校の敷地内には仮設住宅があり、ここから通う生徒もおりまし

た。どんな現実も前進するしかないのだ、という強い心を感じずにはいられませんでした。高校生からのリクエストは「友」でした。今の自分があるのは友達がいるから、友達に支えられているから・・・そんな言葉を添えてリクエストしてくれました。自分たちがリクエストした文字を一心に見つめる眼差しを熱く感じながら筆を走らせた心地良い瞬間はいつまでも私の心に焼き付いています。

(平成二十五年六月十九日)



今年の3.11

東日本大震災から3年目を

迎えた今年の3月11日。昨年の3月11日と同じ場所、石巻市役所1階のヘイセイドラッグ店頭で手書きのボランティアをしてきました。約3時間の間に80名ほどの方へ希望される文字を「じぞうもじ」にして書きました。昨年いらした方もいて、今年会えるのを待つてました、と言われたときには私も思いがけない感動・・・ある人に贈りたいので、という方も多くその際に津波で一人息子さんを亡くし、いまだに立ち直れずにいるというそのお母さんへ渡したい、亡くなった子供の名前を、お母さんの名前を、お父さんの名前をおばあちゃんの名前を・・・それはそれはさまざまでした。ある女性に書いたものを手渡し、それを手にとってもらったとき、その方が思わず泣いてしまってお店の方が無言で背中をさすって抱きながら励ますというシーンもありました。そんな人の心に触れた3.11

でした。



書家の友人

書道界にいたときに250人ほどのお弟子さんがいたという屈指の書道家の友人がいます。しかし、書道界という門の中では自分が好きないように書きたいものが書けないということから、書道界から去ったという方です。一門から抜けたら生活にも困ることを承知で自由を選択した彼女は、ハンブルグ、ニューヨーク、ロサンゼルスと日本人で初めて書の個展を開催したので、彼女の作品は「クリス

タル書アート」という、筆で描いた線が呼吸そのものです。数ある芸術の中で呼吸を表現できるものは日本の書しかない、と彼女は語っています。書の芸術家である彼女の名は、星 淑子さん。書道界の一門に属しない活動は大きな共通点かもしれない。それぞれの道を自由に生きる刺激を受けています。

異色の書家二人展

書という共通のものでありながら異色の書家二人が同じ空間に展示をするという企画が実現します。星 淑子さんと私の「異色の書家二人展」を十一月十八日(月)から十一月一日(日)まで仙台の「長町遊楽庵びすたくり」で開催することになりました。お近くの方は是非、ご覧ください。会場が貸切の場合もありますのでご確認をお願いします。仙台市太白区長町3-7-1 TEL. 022-352-7651

じぞうもじと生と死

じぞうもじを書くこと...それは、人間の生と死に深く結びついていっているということを感じずにはいられませぬ。この世に命が誕生し、赤ちゃんに名前がつけられると、私の元にお祝いに贈るので赤ちゃんのお名前のご依頼が参ります。また、子供の名前をお願いします、孫の名前をお願いします、というご依頼も。まだ小さな赤ちゃんの名前は、書くときの感触が軽く、そしてこれから色づいていくだろう個性がそれぞれに違うものであることが感じられます。これは名前の文字の中に流れる何かがあるのだと



これまで数千人の名前や文字を書いた経験から感じ得たものです。小さなお子さんのお名前を書く場合には、そうした無垢な印象から文字に顔を入れることが多いのです。命の誕生があれば、死というものがあるわけで、その死というものも、最愛の人であればあるほど残された者にとつては耐えがたいことでもあります。じぞうもじを書くようになって、死の宣告を受けどうしたらいいのかわからない状況でいるそのご家族やご友人から依頼を受けることもあります。そんなとき、不思議とお地藏様の存在がより大きく感じられるのです。ご依頼いただいたお名前をじぞうもじにして書くとき、書の中のお地藏さまと一緒に走らせて手を合わせる心で筆を走らせます。一心に書いているとお地藏様の微笑みが、生きていくように感じられるのは、きっと届いた先でそのお役目をしてくださるのだろう...そんな

手書きイベント

思いになります。

☆毎月最後の日曜日に秋保木の家で手書きしています。

十月二十七日(日)

十一月二十四日(日)

午前十一時から三時まで

電話 022-397-2714

☆第十六回J.Aみやぎ仙南フェスティバル「角田地区農協祭」

十一月九日(土)・十日

(日)二日間

電話0224-63-3294

☆異色の書家二人展

長町遊楽庵びすたくり

十一月十八日〜十二月一日

